

令和6年度活動基本活動にあたり

今年元日から能登半島地震という大きな災害が起きました。あらためて、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、今なお避難生活を送られている被災地の皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

本会はこの10年、社会からの要請に応えるとともに、時代の変化を見据えて、その教育を進化させてきました。人も動物も豊かな社会の実現のため、動物取扱責任者要件を満たす公認ライセンスを最たる強みとし、業界では最大となる26種の通信講座、4種のeラーニング講座、そして100種を超える通学講座の開発など特色ある教育プログラムを提供することで、学生、事業者、そしてペットオーナーズが、これらの多彩な学びを通して成長し、社会へ貢献するとともに、一人ひとりがペットとともによりよい人生を送ることのできる力の習得を図ってきました。

しかし、現在の動物業界では、急速に少子化が進む中、動物専門学校学生の募集力と教職員の指導力の相対的な低下による人材輩出の停滞が、また、同時に急速に進む高齢化の中、動物の飼養頭数の減少が、業界の魅力や将来的な成長、そして人もペットも豊かな社会の持続を阻害する要因となっています。

このような状況下で、本会は、これから10年先を見据え、これまでの10年の実績や固定概念に囚われない発想をもった活動を推進し、業界課題を解決していくことで、人もペットも豊かな社会のためにこれからも成長し続けていきたいと考えます。そして、新型コロナウイルス感染症が昨年5月に感染症法上の位置付けが5類に移行し、ようやく様々な活動が通常に戻ってきた今年度を、10年先を見据えたスタートラインの年として、走り始めたいと思います。

今年度はまず、これまでと違った動物専門学校へのサポートに取り組んでいきます。10年前とは違い、ものごとを一括りで考えるのが難しい時代になってきました。解決したい課題や学生へ提供したい教育プログラムも、各学校によって異なるのも当然であります。そこで本会は、学校ごとに寄り添い、一人でも多くの人材輩出を決め細かくサポートしていくことで、学校と共に成長していきたいと考えます。

次に、人口減少とともに全人口の約3割が65歳以上の高齢者となり、動物の飼養頭数も減少していく世の中においては、原点に戻り、「ぬくもり」や「心臓の鼓動」、「愛らしさ」を人が五感で感じることができる「動物の力」を発信していきたいと考えます。しかし、動物業界でものごとを考え、発信していくには広がりやスピードをもった取り組みは期待ができません。そこで本会は、「動物の力」を動物業界から発信するのではなく、人の福祉業界へ啓発し、人の福祉業界から「動物の力」を発信し、その価値を向上させていく仕組みを作っていくことで業界課題へ取り組み、人の福祉業界とともに成長していきたいと思えます。

最後に、私たちが住む日本において、人もペットも豊かな社会が持続的に発展するためには、いつ起こるかわからない災害を念頭においた社会創りが欠かせません。そこで本会は、行政でも大いに期待され、既に活動するペット災害危機管理士®の人材育成を強化すると同時に、その人材価値を大きく上げていきたいと思えます。これもまた、動物業界だけで考えると社会からの要請との齟齬が生まれる可能性がありますので、人の災害派遣医療チーム(DMAT)や災害派遣精神医療チーム(DPAT)など、人の災害活動から学び、活動のあり方を絶えず研究していくことが大事となります。本会は、その学ぶ環境を創り、社会バランスのとれた人材を育成、価値をあげていくことで、人もペットも社会で唯一の頼れる協会へ成長していきたいと思えます。

私たちSAEは、これからの10年も仲間を増やし、学校、学生、事業者、ペットオーナーズたちとの和をもって、人も動物も豊かな社会のために、一意専心邁進して参ります。